

プロファイリングからポートフォリオへ

学生ジョブコーチの実践から支援をつないでいくための「情報」について考える

The Function of Profiling and Portfolio

中鹿直樹*・尾西洋平*・小島 遼*・林 炫廷*・望月 昭*・土田菜穂**

Nakashika, N., Onishi, Y., Kojima, R., Lim, H., Mochizuki, A., & Tuchida, N.

*立命館大学, **京都市立北総合支援学校

Ritsumeikan University

Key words:ポートフォリオ, 継続的支援, 学生ジョブコーチ

問題

立命館大学では、学生ジョブコーチの実践研究を行っている。障害のある生徒や成人を対象に、就労先・実習先の職場での援助を行ってきた(望月他, 2010)。近年は大学内に模擬喫茶店舗を設け、就労実習の場として援助を行っている(尾西他, 本大会発表; 井上他, 本大会発表)。本報告では、模擬喫茶店舗での学生ジョブコーチの活動が、対象者のキャリアアップを支えるための情報(ポートフォリオ)を拡大するための装置になるという点について検討する。

対象者の属性を調べ記述することを“プロファイリング”としよう。障害特性に応じた指導方法といったものを考えるためには、属性の記述(たとえば障害種といったもの)が必要となる。しかし対象者のQOL拡大(キャリアアップ: やりがいをもって職務に取り組むこと)のためには、対象者の独自性に目を向けた支援をつなげていくことが必要である。こうした機能を持った情報を“ポートフォリオ”と呼ぶこととする。

実習では、どんな援助設定があれば対象者の「できる」(池田・山本, 2007)が自発し、拡大することができるのかについて、さまざまなことを試みて、発見・記述することが可能となる。この発見を次の支援者につなぐことで、対象者のキャリアアップへとつなぐことが可能となる。ある場面で発見した「できる」の情報がポートフォリオとして機能する。

「できる」の表現の例

余計なことをするのを問題視されている生徒による模擬喫茶店舗での実習でのケースについて紹介する。

表1: 模擬喫茶店舗での実習中の行動を表現

状況 (確立操作)	業務に慣れてきた(スタッフからのフィードバックが少なくなった)
先行事象 (弁別刺激)	客の姿+スタッフの準備する姿
反応(行動)	想定されていない業務に手を出す
後続事象 (結果)	「それはやらないで」

このサイクルによって、かえって床に寝転ぶ、大声を出すなどの行動が頻発するようになった。

表2: 実習中に発見した「できる」

状況 (確立操作)	業務に慣れてきた(スタッフからのフィードバックが少なくなった)
先行事象 (弁別刺激)	客の姿+スタッフの準備する姿
反応(行動)	想定されていない業務に手を出す
後続事象 (結果)	「ありがとう、助かったわ」

このサイクルの導入によって、他にも業務を拡大、自ら関与しようとするようになり、寝転ぶなどの行動は減少した。環境との相互作用について分析・表現し、それに基づいた情報を学校に伝えることで、対象者に対する先生方の評価が変容した。

まとめ

模擬喫茶店舗と学生ジョブコーチによる支援は、対象者のキャリアアップを継続的に支援するための機能を持ったポートフォリオを拡充する装置として有効である。模擬喫茶店舗での学生ジョブコーチによるポートフォリオは、支援者による、これから“できるであろうこと”への発言を促すことにつながった。

模擬店舗であることの利点は、対象者に応じたさまざまな“試行”を行うことができ、それを通じていくつもの“できる”を発見・記述可能なことである。今後はこの機能をより明確にし、就労実習を離れても、対象者のキャリアアップを支えることのできる仕組みづくりを検討する必要がある。

文献

井上 栞他(本大会発表)、尾西洋平他(本大会発表)
望月 昭他(編著)(2010)対人援助学の可能性 福村出版

山本淳一・池田聡子(2007)できる!をのばす行動と学習の支援—応用行動分析によるポジティブ思考の特別支援教育 日本標準